

週報

2026年度 教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

<先週の説教から>

『ルカ77 — わたしを恥じる者を恥じる』

武田真治 牧師

イザヤ書 51:12~14 ルカ福音書 9:22~27

昨週、私たちの教会の長老として長年、ご奉仕し頂いた、坂田雅雄さんを天にお送りしました。『こんな早いとは。』と思われた方も多くおられました。ただ、病との戦いの末、ご自宅にてご家族に囲まれながらも、お苦しみなさることなく召されたことがご遺族にとっては悲しさの中の慰めであったと仰っておられました。私たちには、改めて“人の命のはかなさ”を思わされた出来事でした。

今日の聖書箇所最初 23 節には「イエスは皆に言われた。『わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』」とあり、この「自分を捨てて」という言葉は“自分の死をいつも意識して生きること”と通じています。人はいつか自分の命を失う時が来るのだからこそ、その大切な“命”を「何のために使うのか」という点をイエス様は私たちに問われているのです。

その上で、24節の「自分の命を救いたいと思う者は、それを失う」の言葉は“自分の為だけに命を使うと、むしろその命を失う”という意味となります。しかも、この「命」は（プシュケー）という言葉です。普通の生物学的な「命」の場合は（ゾーエー）であり、この（プシュケー）は「魂」と普通は訳されており、単なる寿命を伸ばす、失うということではないのです。むしろ、私たち一人ひとりの「魂=心の在り様や信念、存在の根幹」が問題になっているのです。その魂が「失われる」ということは、その人の根っこの部分が“崩れたり、腐ったり”してしまうことで、そうすると、人間としてしっかり生きることが出来なくなります。逆に、この魂が「生きる=魂が活き活きとしている」ならば、身も心も充実して“生きる”ことが出来るのです。

そのような、本当の意味で“自分の魂が生きる・報われる”ためには、自分のことだけばかり考えて生きていくと、結局、その中にある“魂”を失うことになる（=生きる意味を見失う）のだと。逆に「イエス様のために=誰か愛する者のために」生きる時に、初めて“自分の魂が生きる・報われる”ようになるのだと。それが次の25節の「人は、たとえ全世界

を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があるのか。」の言葉に繋がっているのです。

そして、イエス様は26節で「わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子も、自分と父と聖なる天使たちとの栄光に輝いて来るときに、その者を恥じる。」と語られます。イエス様のことを「恥ずかしく」思うようになることは、イエス様への信仰を後になって後悔することを意味します。ただ確かに、そのような人をイエス様も同じように「恥ずかしく」思われるけれども、しかし「裁く」とか「見捨てる」とは言われていません。十字架への予告を為さった上で、この言葉を語られる意味は、この後、弟子たちが皆、イエス様から離れて行くことを分かっておられるからの言葉だと言い得ます。それでも彼らを見捨てることはない」と。故に、彼らは再びイエス様の元へと戻ることが出来たのでした。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 6月17日(水) 20:00
II. 6月18日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記
祈祷主題: 東京神学大学を覚えて
担当者: (水) IH (木) NI
祈りに覚える人 SMさん SMさん

*ハンナの会 6月16日(火) 休会

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女52 計69
祈祷会 I. 男4 女1 計5 II. 男1 女5 計6
日曜学校 幼稚科4 小中科8 計12

【次週礼拝】

6月21日(日)
聖書: ダニエル書 10:8~12
ルカによる福音書 9:27~36

説教: 「ルカ78一夜の幻を通して」
武田真治 牧師

讃美歌: 152(1)、32、285、201、463、
27(1)

【次週当番表】

司式: IK長老 奏楽: KH 礼拝: SM長老
献金: SM SM 受付: KN YS
会堂準備: KK KT TR NE
HH HH

看板: SC 週報: YS お花: HM

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校礼拝 ・聖書輪読会 ・はこぶねルーム
礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会 ・聖歌隊練習
・日曜学校教師会 ・幼稚園理事会
・オリブの葉編集委員会 ・改長協研修会

2026年 6月 14日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549